

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000372
法人名	有限会社 あいらんど
事業所名	グループホーム あいらんど
所在地	愛媛県伊予市下三谷2278-1
自己評価作成日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 1月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広い敷地を活かし、天気の良い日は散歩や外での食事を楽しめるよう支援している。</li> <li>・色々な医療機関との連携を活かして、個々の症状に合った医療機関への受診、本人の希望通りの医療機関への受診ができるように支援している。</li> <li>・利用者のペースに合わせて介護できている。</li> <li>・季節ごとの行事をおこなっている。</li> <li>・事業所の菜園で野菜作りを行い、利用者と共に収穫し、その食材で工夫した料理を考え、おだしている。</li> <li>・スタッフの定着率が良く、2/3以上は3年以上勤務しており、チームケアに繋がっている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は静かな田園地帯の中にあり、敷地内には家庭菜園や遊歩道があり、利用者は四季折々の風景を楽しみながら暮らすことができる。開設当初から地域との交流に積極的に取り組んでおり、事業所の行事には地域住民に気軽に参加してもらうなど、地域の一員として認められている。また勤務年数の長い職員が多く、日頃から知識や技術向上のために勉強会を行うなど、目標をもって日々のケアに取り組んでいる。看取りについては、利用者や家族の希望に沿えるよう医師や看護師と連携して対応している。安心して終末期を迎えられるよう、職員教育等体制づくりにも力を入れて取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいらんど

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 濱田 好人

評価完了日 平成24年12月17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携・交流を大切にした地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を全職員で検討して実践に活かすために再構築した。再構築した理念を職員が常に目にする事ができる場所に貼っている。	
			(外部評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえながら、全職員で話し合っって作成した理念には、ゆったりと自分らしく穏やかに、地域と笑顔で繋がりながら暮らしてほしいという思いが込められている。日々、職員は理念を確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所の周辺は地域の方々の散歩コースとなっている為、いろいろな方と挨拶が日常的になっている。地域の秋祭りには神輿や獅子舞に入ってもらっている。夕涼み会は家族会の協力を得て開催しており、近所の方々がホームを訪れ地域との交流を深めている。	
			(外部評価) 伊予市の花火大会の日に合わせて事業所が開催する夕涼み会は、地域住民や利用者家族等多数の参加があり、地域の一大イベントとなっている。開設当初から事業所が地域の交流の場となるよう働きかけてきた結果であり、地域とのつながりを築くことができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の方、地域の方から家族の介護について事業所として相談をうけている。家族介護教室への参加等、家族や地域の人々に認知症を理解してもらえるよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回は開催し、利用状況・サービスの実践状況・外部評価等の報告をし、議題に沿った意見交換や勉強会の内容をサービス向上に活かしている。避難訓練・消火訓練・救助訓練に参加していただいたり、備蓄食品の試食会も再度行なった。又、他のGHの運営推進会議にも参加している。	
			(外部評価) 運営推進会議では、利用者の写真を見てもらいながら日頃の様子や状況を分かりやすく説明している。また、看取りの実施や災害時の対応など事業所の取組みを報告し、参加者からは積極的に意見が出され、サービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、現場の実情を踏まえた意見交換をしている。また、代表者は日頃から市担当者との連携を図り、助言を得たり、情報提供を行っている。地域包括支援センターとも密に連携し役割についての勉強会を開催している。	
			(外部評価) 市の担当者には運営推進会議に参加してもらい、日常的に相談や情報提供などをしており協力体制が構築できている。地域包括支援センターの職員にも運営推進会議に参加してもらい、地域包括支援センターの役割を話してもらう等、積極的に連携するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成している。身体拘束は行わないことを、施設内研修を通してすべての職員が認識し、身体拘束のないケアをおこなっている。身体拘束が必要なときは生命にかかわるときであり、家族に十分説明し身体拘束承諾書もらう体制を整えている。日中は玄関の施錠を行っていない。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアの内容や弊害について、職員はマニュアルや研修を通して正しく理解し、実践につなげている。日中は玄関の施錠は行わず、安全で自由な暮らしができるよう、利用者一人ひとりの状態を把握し見守りながら支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行わないことを施設内研修やミーティング時に話し合い、すべての職員が認識し、虐待のないケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の施設内研修を行い、職員が理解している。また、マニュアルを作成しており、利用者や家族等に説明できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には重要事項説明を十分行い、家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得を頂いて入居している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回の家族会や運営推進会議での家族出席時等、意見交換ができています。又、家族の面会も多いため職員は利用者や家族から意見や要望を聞き取ることが出来るよう努力している。	
			(外部評価) 面会時等に職員が利用者の様子を伝えて、家族が希望や意見を言いやすいように配慮している。年2回の家族会は事業所の行事に合わせて開催し、参加者も多く家族同士が話し合える場になっている。家族から出た意見や要望は速やかに対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の会話の中や月一回のユニット会議に代表者も出席し、話し合った内容や意見等を運営に反映させている。又、管理者は年1回、代表者は年2回職員との個別面談の機会を設けている。  (外部評価) 定期的に職員の個人面談の機会を設け、意見や要望を聞いている。意識改善のために「仕事と生活を考える会」を発足する等、職員が常により良い環境で働けるよう取り組んでいる。管理者も現場にいるため、職員は日常的に意見や要望を伝えやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は特別な事がない限り毎日出勤し、職員の健康状態・勤務状況を把握し、モチベーションを上げるような対策をしている。また、人事考課制度により職員個々の評価を行い、考課表を基に一人ひとりとヒアリングを行い、労働条件等職場環境の整備に努めている。その他、月一回のスタッフ会を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修を受ける機会を確保し、法人内では、助言、指導、資料、文献の提供等、管理者・計画作成担当者がその都度行っている。又、所外研修受講者はユニット毎のスタッフ会で社内研修を行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は同業者ネットワーク等に加入し、事業者同士の協働により他のGHの運営推進会議に参加する等、質の向上に取り組んでいる。又、職員個人が研修等で知り合った方と情報交換している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前の事前調査では、本人が一番困っている事、不安な事、求めている事を傾聴し、少しでも安心して新しい暮らしをスタートできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前の事前調査では、家族が一番困っている事、不安な事、求めている事を家族から訊くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、本人・家族が求めている支援を見極め、地域包括センターや病院の地域連携室とも連携をとり、その時その方のニーズにあったサービス利用を慎重に検討し、紹介や助言をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす事で、利用者が生き生きとした言動や笑顔を引き出せる様雰囲気作りを行い、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方的な支援ではなく、家族と一緒に本人を支えていく関係を築くために、場合によっては、通院介助や外出、外泊を定期的に行ってもらっている。又、家族会で行なわれるイベント(夜市・餅つき)では、職員に代わって介護をしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係が途切れないように住んでいた地域の敬老会に出かけたり、同窓会・墓参り・親戚宅等へ家族と一緒に出かけるよう外出の支援をしている。盆、正月には外泊され、近所、親戚の方と一緒に過ごす機会がある。入居後はホーム近くの神社や山、海岸が新たな馴染みの場所となっており、出かけることが楽しみとなっている。 (外部評価) 利用者一人ひとりが大切にしてきた馴染みの関係や場所を把握し、関係が継続できるように積極的に働きかけている。入居期間の長い利用者は職員や利用者とも馴染みの関係になっており、事業所を居心地の良い我が家のように感じながら過ごしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者個々の思いや感情を把握することにより、仲のよいもの同士が過ごせる配慮や、孤立しないようさりげなく交わされる配慮など、利用者同士の支えあいを支援している。職員は全員がそのときの利用者同士の関係を情報で共有、理解している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居してもその後の利用者や家族には利用者の状況を訊くようにしている。また、他のサービスに移行する際には、くわしい介護情報提供書を作成し、申し送りをしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で(入浴時・調理手伝時・散歩時・食事時等)要望を聞き、出来るだけ希望に添うように努めている。思いや意向を知ることが困難な利用者には、表情や動作等からも把握するよう努めている。個別カンファレンスをもち、利用者本位に検討をしている。 (外部評価) 日々の生活の中で、利用者との会話や一緒に過ごす時間を大切にして、利用者がどのように暮らしたいのか思いや意向の把握に努めている。知り得た情報は記録に残して、職員全員が共有し、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートにより利用者一人ひとりの生活歴を情報収集し、職員全員が把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量、心身状態を観察し職員全員が情報を共有している。月1回の個別カンファでも利用者ごとの現状の把握に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用開始時には、まず、入居前に聞き取った利用者の生活歴や健康状態等から暫定的な介護計画を作成している。実施期間を明示しており見直し時にはスタッフ会で意見やアイデアを出し合い作成している。一ヶ月に一回介護計画の評価を行い状況の変化によっては随時見直しを行っている。 (外部評価) 利用者と家族の意見を取り入れて、利用者がより良く暮らせるように介護計画を作成している。月1回、職員全員でモニタリングを行い、現状に即した計画であるか確認し、見直しを行っている。利用者一人ひとりの介護計画には、職員全員が関わるようにしており、日々のケアにも活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのケアプランに添った介護を行い、その内容を介護記録に詳細に記録している。月一回のカンファレンスにて情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院介助入退院のお迎え・個別外出の支援等、様々なケースや状況に柔軟に対応している。訪問看護などにより的確な専門医への移送サービス体制がとれている。訪問マッサージを週2~3回受けておられる利用者がおられる。定期的に理美容を受けられるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 周辺施設（商店、警察、消防等）の理解、協力への働きかけを行っている。民生委員さんとの意見交流の場をもっている。地域包括センターからの入居依頼、相談等があった場合もケアマネジメントについて協働している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者及び家族が希望する医療機関を受診してい る。又事業所の協力医療機関とは24時間体制で連携を 図っており、緊急時にも対応できるように体制を整備 している。週一回の往診があり、定期的な健康診断 や、血液検査も受けるなど健康管理に努めている。眼 科・歯科の往診もあり、個別専門病院の受診体制も整 えている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診がで きるよう支援している。利用者の健康状態は常に把握 できており、異常時は速やかに適切な医療が受けられ る体制がある。年1回、利用者全員がレントゲンと血 液検査を受けるなど健康管理に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者をよく知る看護師が日常の健康管理を行い、 状態の変化や異常を早い段階で気づき、医療支援につ なげている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院する際に本人のストレスや負担を軽減する為に 本人に対する情報の提供を行い、早期退院に向け医療 機関との連携を整えている。退院前には担当医や看護 師に情報提供を行ってもらいダメージを最小限にでき るよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用開始時に、「看取りに関する指針」を家族に説 明し同意を得ている。(これまで7名の看取りを行 なっている)看取りについての医師を交えた話し合い の場を設け、方針を共有している。看取り計画書を作 成し、主治医、訪問看護との連携を図り、終末期のケ アにあたっている。全職員が技術や知識を高めていく ために、勉強会を実施している。</p> <p>(外部評価) 利用者と家族の意向を大切に、安心して納得のいく 終末期を過ごせるように、主治医や看護師と連携しな がら対応している。現在まで4年間で7名の看取りを 行っている。職員全員が重度化についての知識を高 め経験を重ねて、思いやりの気持ちを持ったケアを実 践している。地域の方に看取りの話をするなど、普及啓 発にも努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対策マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。所外研修にも参加し、所内研修にて急変時の対応に付いてスタッフ全員が勉強している。(AEDの使い方・気道異物の除去法・心肺蘇生法)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成しており、おおむね年一回消防訓練、避難訓練を利用者とともに受けている。又、民生委員、総代など地域の方や地元の消防団の方々は、夏祭り・秋祭りには来設され、ホームのことをよく知っており、災害時協力を得られるよう働きかけ、協力体制を整えている。備蓄については、食料、飲料を3日分程度は備えている。地震の時は地域の高齢者の避難場所として解放する。平成22年3月にはスプリンクラーを設置した。 (外部評価) 事業所が災害時に地域住民の避難場所となることを想定し、備蓄食料や非常用品等を準備している。災害時の対応について、地域住民や消防団と具体的に話し合う機会を持ち、地域との協力体制を築いている。職員が少ない夜間想定での避難訓練を実施したり、職員間の緊急連絡網が機能できるか確認するなど、いざという時に確実に対応できるよう準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の取り扱いの重要性を職員全員が理解しており、誇りやプライバシー、プライドを損ねるような言葉掛けや対応がないよう配慮している。又スタッフ会などで個人情報保護について話し合いをもっている。来設者の個人情報保護については来客チェック表を箱式にするなどしている。 (外部評価) 職員は利用者への尊敬の気持ちを大切にしている。日常の関わりの中で、名前の呼び方や会話等が慣れ合いになり誇りや尊厳を傷つけていないか、職員同士で注意し合っている。特に、入浴や排泄時の声かけ等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりが自己決定できるよう選んでもらう場面作りや、日常的に声掛けを行っている。自己決定できる人にはして頂き、うまく意思表示ができない場合も不安にならないように職員が思いを察知して自己決定をうながすよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員ができるだけ業務におられることのないよう話し合いをもっている。利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を大切にし、髪型や服装、おしゃれを支援している。2ヶ月に1回訪問理美容院に來設してもらい、好みのカット、カラーをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、準備・片付けは出来るだけ一緒に行き、食事は楽しむこと出来るよう支援している。献立は利用者と話し合って立て、外食を楽しむこともある。又、菜園で取れた旬の野菜を食事に取り入れたり、天気の良い日は戸外での食事と一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は地産地消を大切にしており、事業所の家庭菜園で旬の野菜を収穫して調理に使っている。利用者は職員との会話を楽しみながら、和やかな食事の時間になっている。食器類は使い慣れた馴染みのものを使っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病の方がいるため、水分、栄養バランス、一日のおおまかなカロリー摂取量を把握し、月1回体重測定を行なっている。利用者の状況に応じてキザミ食、ペースト食、水分のトロミをつけるなど工夫して提供している。食事量は健康管理表に記入している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。夕食後の義歯の清潔保持に努めている。歯の具合が悪いときは協力歯科医院の受診や訪問を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄状態を詳細に記録し、表情や動作で察知し、誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのその日の体調や状態に合わせて、オムツに頼らずできるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックを毎日行っており、水分摂取に気をつけ、食事の工夫（牛乳等）や、運動をできる限り取り入れ、自然排便を促すよう支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は概ね決まっているが、利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。利用者の状況によっては特殊浴槽を使用して入浴を行っている。入浴の際利用者とのコミュニケーションを大切にし、楽しみをもてるよう支援している。	
			(外部評価) 一般浴槽と特殊浴槽があり、利用者の状態や希望に合わせて安全に入浴できるよう支援している。季節に合わせてゆず湯にする等、入浴が楽しみになるよう工夫している。入浴の苦手な利用者には無理強いせず、声かけやタイミングを工夫して気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活リズムを整え、安眠できるようにしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の薬の目的、副作用、用法、用量を承知しており、服薬の支援、症状の変化を確認し、薬歴表に記入している。 又、のみ忘れ・誤薬がないように2重チェック体制をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの力量にあわせた役割をもってもらい(食器拭き、洗濯、ゴミ捨て、掃除機がけ等)カラオケや読書、オセロ、将棋や散歩の楽しみごとにも時間を費やすことのできるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には敷地内を散歩したり、食材の買い物に行くときは、戸外へ出かけられるよう支援している。日々の会話の中で利用者の行きたいところを把握しており、できるだけ希望に添うよう家族とも連携をはかり実現できるよう支援している。(花見、外食、墓参り、里帰り、ミュージカル、コンサート)	
			(外部評価) 事業所周辺は静かな田園地帯で、春にはすぐそばの桜を眺められるなど四季折々の風景を感じられる環境にある。散歩等日常的な外出が利用者の良い気分転換になっている。利用者の希望を取り入れながら、外出や外食等の機会を多く作るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量に応じて金銭管理を援助している。買い物のときは、できるだけ本人が支払う機会をもっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ、自由に電話を利用ができるようにしている。又、年賀状や暑中見舞いの送付も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂のテーブルは家庭用家具（施設用ではない）を使用しており、居間の掘りごたつ、リビングのソファ等家庭的な共同空間作りに努めている。（手作りののれん、カレンダー）トイレは気持ちよく使用できるように配慮している。 玄関ホール、リビング、中庭には季節に応じて環境づくりに努めている。（メダカ・グリーンカーテン・観葉植物・季節の花）</p> <p>(外部評価) 明るいリビングには畳スペースやソファがあり、利用者は思い思いの場所でくつろいで過ごしている。季節に合った生け花や壁面の飾り等を工夫し、家庭的な温もりを感じることができるように配慮している。両ユニットの間にある中庭が利用者同士の交流の場にもなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関ホール、リビング、居間の掘りごたつ、中庭等、共同空間の中に自由に過ごせる居場所を確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や寝具と生活用品を持込まれ、本人や家族と協力し安心して過ごされるよう機能的に配置し、家族の写真や好みのポスター、カレンダー等を飾ることにより、居心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドとクローゼットが備え付けられている。利用者の使い慣れた馴染みの家具やお気に入りの小物等を持ち込んで、自宅のような雰囲気の中でゆっくり過ごせるようにしている。居室の入り口には職員手作りののれんがかけられ、プライバシーにも配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室、トイレ、浴室に手作りの表札やのれんをつけている。自分の居室が、わからない人には、造花等の目印をつけている。 浴室の滑り止め、要所の手すり、ベッド柵の設置等、ADLの低下を補うよう配慮している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000372
法人名	有限会社 あいらんど
事業所名	グループホーム あいらんど
所在地	愛媛県伊予市下三谷2278-1
自己評価作成日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 1月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりが穏やかに暮らせるように生活のリズムを整え、馴染みの関係を活かし、利用者の秘めた力を引き出す支援を行っている。</li> <li>・夏祭りや地方祭を通して地域との交流を深め、親しみやすいホームにしている。</li> <li>・季節ごとの行事や環境作り、菜園の収穫等、常に五感に働きかけた支援をしている。</li> <li>・日頃から健康管理を行い、異常の早期発見をし、医療機関への受診を速やかに行っている。</li> <li>・スタッフの定着率が良く、2/3以上は3年以上勤務しており、チームケアに繋がっている。</li> <li>・家族の面会時等に意見や要望を言いやすい環境づくりに努め、家族との信頼関係を構築できている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は静かな田園地帯の中にあり、敷地内には家庭菜園や遊歩道があり、利用者は四季折々の風景を楽しみながら暮らすことができる。開設当初から地域との交流に積極的に取り組んでおり、事業所の行事には地域住民に気軽に参加してもらうなど、地域の一員として認められている。また勤務年数の長い職員が多く、日頃から知識や技術向上のために勉強会を行うなど、目標をもって日々のケアに取り組んでいる。看取りについては、利用者や家族の希望に沿えるよう医師や看護師と連携して対応している。安心して終末期を迎えられるよう、職員教育等体制づくりにも力を入れて取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

**【記入方法】**

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいらんど

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 亀岡 美由紀

評価完了日

平成24年12月17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域との連携・交流を大切にした地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を全職員で検討して実践に活かすために再構築した。再構築した理念を職員が常に目にする事ができる場所に貼っている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえながら、全職員で話し合っって作成した理念には、ゆったりと自分らしく穏やかに、地域と笑顔で繋がりながら暮らしてほしいという思いが込められている。日々、職員は理念を確認しながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所の周辺は地域の方々の散歩コースとなっている為、いろいろな方と挨拶が日常的になっている。地域の秋祭りには神輿や獅子舞に入ってもらっている。夕涼み会は家族会の協力を得て開催しており、近所の方々がホームを訪れ地域との交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 伊予市の花火大会の日に合わせて事業所が開催する夕涼み会は、地域住民や利用者家族等多数の参加があり、地域の一大イベントとなっている。開設当初から事業所が地域の交流の場となるよう働きかけてきた結果であり、地域とのつながりを築くことができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の方、地域の方から家族の介護について事業所として相談をうけている。家族介護教室への参加等、家族や地域の人々に認知症を理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回は開催し、利用状況・サービスの実践状況・外部評価等の報告をし、議題に沿った意見交換や勉強会の内容をサービス向上に活かしている。避難訓練・消火訓練・救助訓練に参加していただいたり、備蓄食品の試食会も再度行なった。又、他のGHの運営推進会議にも参加している。	
			(外部評価) 運営推進会議では、利用者の写真を見てもらいながら日頃の様子や状況を分かりやすく説明している。また、看取りの実施や災害時の対応など事業所の取組みを報告し、参加者からは積極的に意見が出され、サービス向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、現場の実情を踏まえた意見交換をしている。また、代表者は日頃から市担当者との連携を図り、助言を得たり、情報提供を行っている。地域包括支援センターとも密に連携し役割についての勉強会を開催している。	
			(外部評価) 市の担当者には運営推進会議に参加してもらい、日常的に相談や情報提供などをしており協力体制が構築できている。地域包括支援センターの職員にも運営推進会議に参加してもらい、地域包括支援センターの役割を話してもらう等、積極的に連携するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成している。身体拘束は行わないことを、施設内研修を通してすべての職員が認識し、身体拘束のないケアをおこなっている。身体拘束が必要なときは生命にかかわるときであり、家族に十分説明し身体拘束承諾書もらう体制を整えている。日中は玄関の施錠を行っていない。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアの内容や弊害について、職員はマニュアルや研修を通して正しく理解し、実践につなげている。日中は玄関の施錠は行わず、安全で自由な暮らしができるよう、利用者一人ひとりの状態を把握し見守りながら支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行わないことを施設内研修やミーティング時に話し合い、すべての職員が認識し、虐待のないケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の施設内研修を行い、職員が理解している。また、マニュアルを作成しており、利用者や家族等に説明できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には重要事項説明を十分行い、家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得を頂いて入居している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム内及び外部の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。家族が来訪した際には希望や想いを率直に聞かせてもらい、遠方の家族には電話等で連絡を取り合っている。家族会では行事を通して家族間の話し合いの場を設けたり、ケアプラン説明時に発言の場を設け、意見や要望を運営に反映している。 (外部評価) 面会時等に職員が利用者の様子を伝えて、家族が希望や意見を言いやすいように配慮している。年2回の家族会は事業所の行事に合わせて開催し、参加者も多く家族同士が話し合える場になっている。家族から出た意見や要望は速やかに対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の会話の中や月一回のユニット会議に代表者も出席し、話し合った内容や意見等を運営に反映させている。又、管理者は年1回、代表者は年2回職員との個別面談の機会を設けている。  (外部評価) 定期的に職員の個人面談の機会を設け、意見や要望を聞いている。意識改善のために「仕事と生活を考える会」を発足する等、職員が常により良い環境で働けるよう取り組んでいる。管理者も現場にいるため、職員は日常的に意見や要望を伝えやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は特別な事がない限り毎日出勤し、職員の健康状態・勤務状況を把握し、モチベーションを上げるような対策をしている。また、人事考課制度により職員個々の評価を行い、考課表を基に一人ひとりとヒアリングを行い、労働条件等職場環境の整備に努めている。その他、月一回のスタッフ会を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修を受ける機会を確保し、法人内では、助言、指導、資料、文献の提供等、管理者・計画作成担当者がその都度行っている。又、所外研修受講者はユニット毎のスタッフ会で社内研修を行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は同業者ネットワーク等に参加し、事業者同士の協働により他のGHの運営推進会議に参加する等、質の向上に取り組んでいる。又、職員個人が研修等で知り合った方と情報交換している。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前の事前調査では、本人が一番困っている事、不安な事、求めている事を傾聴し、少しでも安心して新しい暮らしをスタートできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前の事前調査では、家族が一番困っている事、不安な事、求めている事を家族から訊くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、本人・家族が求めている支援を見極め、地域包括センターや病院の地域連携室とも連携をとり、その時その方のニーズにあったサービス利用を慎重に検討し、紹介や助言をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす事で、利用者が生き生きとした言動や笑顔を引き出せる様雰囲気作りを行い、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方的な支援ではなく、家族と一緒に本人を支えていく関係を築くために、場合によっては、通院介助や外出、外泊を定期的に行ってもらっている。又、家族会で行なわれるイベント(夜市・餅つき)では、職員に代わって介護をしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係が途切れないように住んでいた地域の敬老会に出掛けたり、近所の方が尋ねて下さったりしている。盆、正月には外泊され、近所、親戚の方と一緒に過ごす機会がある。入居後はホーム近くの神社や山、海岸が新たな馴染みの場所となっており、出かけることが楽しみとなっている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりが大切にしてきた馴染みの関係や場所を把握し、関係が継続できるように積極的に働きかけている。入居期間の長い利用者は職員や利用者とも馴染みの関係になっており、事業所を居心地の良い我が家のように感じながら過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者個々の思いや感情を把握することにより、仲のよいもの同士が過ごせる配慮や、孤立しないようさりげなく交わされる配慮など、利用者同士の支えあいを支援している。職員は全員がそのときの利用者同士の関係を情報で共有、理解している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居してもその後の利用者や家族には利用者の状況を訊くようにしている。また、他のサービスに移行する際には、くわしい介護情報提供書を作成し、申し送りをしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で(入浴時・調理手伝時・散歩時・食事時等)要望を聞き、出来るだけ希望に添うように努めている。思いや意向を知ることが困難な利用者には、表情や動作等からも把握するよう努めている。個別カンファレンスをもち、利用者本位に検討をしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者との会話や一緒に過ごす時間を大切にして、利用者がどのように暮らしたいのか思いや意向の把握に努めている。知り得た情報は記録に残して、職員全員が共有し、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートにより利用者一人ひとりの生活歴を情報収集し、職員全員が把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量、心身状態を観察し職員全員が情報を共有している。月1回の個別カンファでも利用者ごとの現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用開始時には、まず、入居前に聞き取った利用者の生活歴や健康状態等から暫定的な介護計画を作成している。実施期間を明示しており見直し時にはスタッフ会で意見やアイデアを出し合い作成している。一ヶ月に一回介護計画の評価を行い状況の変化によっては随時見直しを行っている。 (外部評価) 利用者と家族の意見を取り入れて、利用者がより良く暮らせるように介護計画を作成している。月1回、職員全員でモニタリングを行い、現状に即した計画であるか確認し、見直しを行っている。利用者一人ひとりの介護計画には、職員全員が関わるようにしており、日々のケアにも活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのケアプランに添った介護を行い、その内容を介護記録に詳細に記録している。月一回のカンファレンスにて情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 透析、訪問看護などよりの確な専門医への移送サービス体制がとれている。訪問マッサージを週2~3回受けておられる利用者がおられる。定期的に理美容を受けられるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 周辺施設（商店、警察、消防等）の理解、協力への働きかけを行っている。民生委員さんとの意見交流の場をもっている。地域包括センターからの入居依頼、相談等があった場合もケアマネジメントについて協働している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者及び家族が希望する医療機関を受診してい る。又事業所の協力医療機関とは24時間体制で連携を 図っており、緊急時にも対応できるように体制を整備 している。週一回の往診があり、定期的な健康診断 や、血液検査も受けるなど健康管理に努めている。眼 科・歯科の往診もあり、個別専門病院の受診体制も整 えている。 (外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診がで きるよう支援している。利用者の健康状態は常に把握 できており、異常時は速やかに適切な医療が受けられ る体制がある。年1回、利用者全員がレントゲンと血 液検査を受けるなど健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者をよく知る看護師が日常の健康管理を行い、 状態の変化や異常を早い段階で気づき、医療支援につ なげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院する際に本人のストレスや負担を軽減する為に 本人に対する情報の提供を行い、早期退院に向け医療 機関との連携を整えている。退院前には担当医や看護 師に情報提供を行ってもらいダメージを最小限にでき るよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用開始時に、「看取りに関する指針」を家族に説 明し同意を得ている。(これまで7名の看取りを行 なっている)看取りについての医師を交えた話し合い の場を設け、方針を共有している。看取り計画書を作 成し、主治医、訪問看護との連携を図り、終末期のケ アにあたっている。全職員が技術や知識を高めていく ために、勉強会を実施している。 (外部評価) 利用者と家族の意向を大切に、安心して納得のいく 終末期を過ごせるように、主治医や看護師と連携しな がら対応している。現在まで4年間で7名の看取りを 行っている。職員全員が重度化についての知識を高め 経験を重ねて、思いやりの気持ちを持ったケアを実践 している。地域の方に看取りの話をするなど、普及啓 発にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対策マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。所外研修にも参加し、所内研修にて急変時の対応に付いてスタッフ全員が勉強している。(AEDの使い方・気道異物の除去法・心肺蘇生法)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成しており、おおむね年一回消防訓練、避難訓練を利用者とともに受けている。又、民生委員、総代など地域の方や地元の消防団の方々は、夏祭り・秋祭りには来設され、ホームのことをよく知っており、災害時協力を得られるよう働きかけ、協力体制を整えている。備蓄については、食料、飲料を3日分程度は備えている。地震の時は地域の高齢者の避難場所として解放する。平成22年3月にはスプリンクラーを設置した。 (外部評価) 事業所が災害時に地域住民の避難場所となることを想定し、備蓄食料や非常用品等を準備している。災害時の対応について、地域住民や消防団と具体的に話し合う機会を持ち、地域との協力体制を築いている。職員が少ない夜間想定での避難訓練を実施したり、職員間の緊急連絡網が機能できるか確認するなど、いざという時に確実に対応できるよう準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の取り扱いの重要性を職員全員が理解しており、誇りやプライバシー、プライドを損ねるような言葉掛けや対応がないよう配慮している。又スタッフ会などで個人情報保護について話し合いをもっている。来設者の個人情報保護については来客チェック表を箱式にするなどしている。 (外部評価) 職員は利用者への尊敬の気持ちを大切にしている。日常の関わりの中で、名前の呼び方や会話等が慣れ合いになり誇りや尊厳を傷つけていないか、職員同士で注意し合っている。特に、入浴や排泄時の声かけ等プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりが自己決定できるよう選んでもらう場面作りや、日常的に声掛けを行っている。自己決定できる人にはして頂き、うまく意思表示ができない場合も不安にならないように職員が思いを察知して自己決定をうながすよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員ができるだけ業務におられることのないよう話し合いをもっている。利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を大切に、髪型や服装、おしゃれを支援している。2ヶ月に1回訪問理美容院に来設してもらい、好みのカット、カラーをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、準備・片付けは出来るだけ一緒に行き、食事は楽しむこと出来るよう支援している。献立は利用者と話し合って立て、外食を楽しむこともある。又、菜園で取れた旬の野菜を食事に取り入れたり、天気の良い日は戸外での食事と一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 食事は地産地消を大切にしており、事業所の家庭菜園で旬の野菜を収穫して調理に使っている。利用者は職員との会話を楽しみながら、和やかな食事の時間になっている。食器類は使い慣れた馴染みのものを使っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 透析の方、糖尿病の方がいるため、水分、栄養バランス、一日のおおまかなカロリー摂取量を把握し、月1回体重測定を行なっている。利用者の状況に応じてキザミ食、ペースト食、水分のトロミをつけるなど工夫して提供している。食事量は健康管理表に記入している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。夕食後の義歯の清潔保持に努めている。歯の具合が悪いときは協力歯科医院の受診や訪問を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄状態を詳細に記録し、表情や動作で察知し、誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりのその日の体調や状態に合わせて、オムツに頼らずできるだけトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックを毎日行っており、水分摂取に気をつけ、食事の工夫（牛乳等）や、運動をできる限り取り入れ、自然排便を促すよう支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は概ね決まっているが、利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。利用者の状況によっては特殊浴槽を使用して入浴を行っている。入浴の際利用者とのコミュニケーションを大切に、楽しみをもてるよう支援している。	
			(外部評価) 一般浴槽と特殊浴槽があり、利用者の状態や希望に合わせて安全に入浴できるよう支援している。季節に合わせてゆず湯にする等、入浴が楽しみになるよう工夫している。入浴の苦手な利用者には無理強いせず、声かけやタイミングを工夫して気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活リズムを整え、安眠できるようにしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の薬の目的、副作用、用法、用量を承知しており、服薬の支援、症状の変化を確認し、薬歴表に記入している。 又、のみ忘れ・誤薬がないように2重チェック体制をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活歴や、趣味を把握し、スタッフの支援の中で、生きがいと役割をもって生活している。(洗濯たたみ、洗濯干し、炊事、ミシン、読書、散歩、楽しみにしているテレビ番組、音楽鑑賞)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内にある遊歩道を歩いたり近くの神社へ散歩に行ったり、スーパーへの買い物等、日常的に外出を行っている。利用者の行きたい所を把握し、家族とも連携をはかり実現できるよう支援している。(花見、外食、ショッピング、墓参り)	
			(外部評価) 事業所周辺は静かな田園地帯で、春にはすぐそばの桜を眺められるなど四季折々の風景を感じられる環境にある。散歩等日常的な外出が利用者の良い気分転換になっている。利用者の希望を取り入れながら、外出や外食等の機会を多く作るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量に応じて金銭管理を援助している。買い物のときは、できるだけ本人が支払う機会をもっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ、自由に電話を利用ができるようにしている。又、年賀状や暑中見舞いの送付も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂のテーブルは家庭用家具（施設用ではない）を使用しており、居間の掘りごたつ、リビングのソファ等家庭的な共同空間作りに努めている。（手作りののれん、カレンダー）トイレは気持ちよく使用できるように配慮している。 玄関ホール、リビング、中庭には季節に応じて環境づくりに努めている。（メダカ・グリーンカーテン・観葉植物・季節の花）</p> <p>(外部評価) 明るいリビングには畳スペースやソファがあり、利用者は思い思いの場所でくつろいで過ごしている。季節に合った生け花や壁面の飾り等を工夫し、家庭的な温もりを感じることができるよう配慮している。両ユニットの間にある中庭が利用者同士の交流の場にもなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関ホール、リビング、居間の掘りごたつ、中庭等、共同空間の中に自由に過ごせる居場所を確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や寝具等、生活用品を持込まれ、本人や家族と協力し安心して過ごされるよう機能的に配置したり作品や写真を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドとクローゼットが備え付けられている。利用者の使い慣れた馴染みの家具やお気に入りの小物等を持ち込んで、自宅のような雰囲気の中でゆっくり過ごせるようにしている。居室の入り口には職員手作りののれんがかけられ、プライバシーにも配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室、トイレ、浴室に手作りの表札やのれんをつけている。自分の居室が、わからない人には、造花等の目印をつけている。 浴室の滑り止め、要所の手すり、ベッド柵の設置等、ADLの低下を補うよう配慮している。</p>	